

よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう

8

August  
2020

山形県中小企業家同友会

月刊 同友

# やまがた



7月29日 第2回 女性部例会



よい会社 よい経営者 よい経営環境をめざす  
中小企業経営者の全国組織

2020年度スローガン

10年ビジョンを描き、  
地域と企業の持続性を追求しよう

# 2020年度 第1回 新会員オリエンテーション開催



7月9日に、自社の経営を維持・発展させるため、同友会をよりよく活用していただけるよう、第1回新会員オリエンテーションを開催しました。コロナウイルスの影響により、思うように動けない状況が続いたため、5か月ぶりの開催となりました。コロナウイルス感染防止の観点からZoomも併用したハイブリッドなオリエンテーションとなり、新会員3名、役員、紹介者11名が参加しました。

はじめに、グループウェア「e.doyu」、「企業変革支援プログラム」の使い方を説明。その後、同友会の歴史と理念についてまとめたDVDを上映しました。同友会活動の真髄は「学びあう」こと。強靱な体質の企業づくりを目指し、さまざまな支部活動、委員会活動が行われていることを確認いただきました。

その後、有限会社グッピー園 代表取締役 高橋明氏より、「同友会とわたし」と題して、「同友会」を自社にどう活用してきたか、どのような成果がでているのかをお話いただきました。

30代の頃、父である社長をサポートしたい、経営の勉強

をしたいとの思いから一念発起し、2010年に同友会に入会された高橋氏。軽い気持ちで参加した山形開催の青年経営者全国交流会で、積極的なグループ討論を目の当たりにし、他の経営者の熱い想いに圧倒されたといいます。熱い想いを持った経営者は経営指針を受けた方が多かったということもあり、経営指針セミナーを受講し、経営指針書を作成しました。

『水と熱帯魚による「いのちの輝き」で「最高の癒し」を作ります』という経営理念に基づき、コロナ禍の現在においても、全国初となるアクアリウムのデリバリーサービスを展開し、お客様の支持を得ています。高橋氏は、「同友会は自分をアップデートさせ、自分の作った経営理念に立ち返る場所。同友会は支部例会や専門委員会など色々な引き出し、活用法がある。自ら求めないと答えは出ない」と語りました。

引き続き行われたグループ討論では「現在の課題と将来の展望」をテーマに創業の思いや、同友会に入った目的、10年後のビジョンなど、時間が足りないくらいに語り合いました。「同友会に入って道筋が見えてきた」「学んだことをいかに発信していくかが大切」「これまではインプットが中心であった。これからはインプットするだけでなく、アウトプットすることで学んでいきたい」と新会員の方より感想をいただきました。

最後に、川合代表理事より、同友会のバッジが贈呈されました。

同友会のマークには、中小企業家が連帯し、目標に向かって飛躍(翔)しようという意味が込められています。同友会活動を通し、知り合い、学びあい、援けあって、自社の経営発展につなげていきましょう。



# 労務・財務セミナー開催



7月16日に『第25期経営指針をつくる会 労務・財務セミナー』が開催されました。会場となったTISカンファレンスセンターには、受講生6名、修了生24名が集まりました。小川委員長の「コロナウイルスが蔓延している中、つくる会への参加表明、また助言者の皆さんにもたくさん集まっていただき感謝申し上げます。今回から労務セミナーも行うこととなり、長丁場になるが集中し、こういう状況ではあるが元気を出してよろしくお願ひしたい」という挨拶でスタートしました。

今回のセミナーは、労務と財務、初の二本立てでの開催となりました。

まず、西塔社会保険労務士事務所 代表 西塔秀幸氏による労務基礎知識の講義が行われました。西塔氏は「就業規則を作っている企業はどれだけあるか?」と問い、就業規則を構成する項目について一つずつ説明しながら、就業規則は法改正等に伴い定期的な見直しが必要であること、従業員を守るもののように見えて、会社を守るものであることを説明しました。西塔氏は「経営指針をつくる時、売上計画をつくる際に、労働条件をどのように上げていくかを盛り込むことが重要だ。同友会では、社員は最も頼りがいのあるパートナーだと位置づけている。こういう会社になりたいと思っても、自分一人ではできない。起きている時間の半分以上、定年までを考えると30年から40年会社で働いている。それがただ給料のためだけでいいのか。この会社に来てよかった、成長できた、働き甲斐がある、そういう会社であるためにも、就業規則を社員の意見を聞きながら作

り、その規則に基づき、社員との信頼関係を築き、会社の業績を上げていただきたい」と述べました。

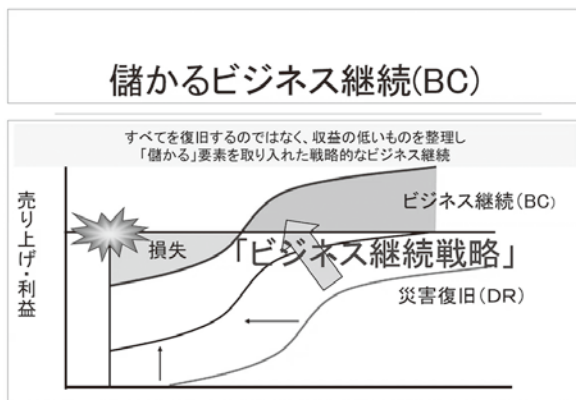
次に、株式会社菊池技建 代表取締役 菊池幸生氏による財務セミナーが行われました。菊池氏自身の経営指針を紐解きながら、財務だけを見るのではなく、全体から財務をどうとらえるかが大切であると説明しました。損益計算書を確認しながら、それぞれの項目の意味を確認。細分化し数字に意味を持たせることが重要であると述べました。菊池氏は給与を毎年上げていくことを経営指針にも盛り込み、それを達成するために、個人給与以外は社員と数字を共有し、月次戦略に細分化しながら、修正をしているといいます。「営業利益を出し、地域にも、会社にも、社員にも貢献していくことが大切だ」と財務を盤石なものにしていくことの重要性を説明しました。

その後、事前課題として出されていた3期分の損益計算書の完成を目指しました。事前課題の数字が合っているかを確認した上で、3期分の損益計算書を見ながら、経営状況、経営課題について話し合いました。始めは遠慮が見られた受講生ですが、数字への理解を深めながら、自社の経営課題に気づいていく様子が、電卓をたたく姿からもうかがい知れました。

受講生からは、課題がたくさん見えてきたとの声が上がりました。これから受講生は来年1月の発表に向けて、様々な講義をとおり、自分と会社に真剣に向き合い、社員や同期の仲間、修了生と深め合いながら経営指針を作成していきます。



# BC(事業継続)セミナー開講



7月15日、オンライン講座形式でBC(事業継続)セミナーが開講し、初回となる講演に57名がweb会議ソフト「zoom」で参加しました。

今回は(一財)危機管理教育&演習センター 理事長 細坪信二氏にご講義いただき、災害等への個別対応ととられがちBCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)について、本質的な考え方を述べられました。

細坪氏は初めに「本来のBCは、災害や感染症に事象を限定した対応マニュアルではなく、事象に対してどう経営を継続させていくかという経営論的な概念」と説明。災害、感染症のみならず、政治経済の影響、取引先の倒産、新規の大量受注など、あらゆる状況においてお客様の希望にこたえることで利益を生み、社員への還元や社会貢献をするために必要な概念こそがBCであると語りました。そして「BCとはリスク軽減ではなく逆境をプラスに変える考え方。経営指針の中にBCの考え方を反映させて、いかなる状況でも自社の中長期計画を達成できるようにしなければいけない」と提起しました。

細坪氏は、これまで日本でBCとして扱われてきた考えは経営論というよりDR(Disaster Recovery:災害復旧)であるとし、その欠点を「事象、被害を想定しないと計画が作れないため限定的」「これまでのレベルまで復旧できたとしても、復旧までの期間で生まれた損失が補填できない」と解説。そのため、事象を問わずにプラスの結果を生み出すことを前提とするBCの考えの重要性を語りました。

そして、事業再開までの目標時間を定め、それを達成するための複数の戦略を用意することが重要とし、実例も取り上げながら、協力会社やライバル会社からの設備借用(お互い様連携)やアウトソーシング、代替サービスの提供、M&Aなど、自社資本にこだわりすぎない広い視野の必要性を訴えます。

またBCに取り組む事で、非常時でも経営指針を実践し

利益が上げられる付加価値型企業になり、学びの視野も広がると言います。その実践のありかたとしては、PDCAよりもD(do:行動)の連続で既存事業の見直しと新規事業の模索を行うことが必要であり、体裁を整えるよりも「儲かる」という結果で雇用や社会に貢献することが重要と語りました。そこでは同友会のような企業間のつながりが重要な意味を持つと語り、兵庫同友会の「アドック神戸(阪神淡路大震災時に設立した『製造部会』を前身とする中小製造業の共同受注・開発グループ)」の活動も取り上げられました。

そしてコロナ禍においては複数の軸から現状で何ができるかを検討し、コロナ禍が長期化することを前提としたうえで、新規事業や、ダメージの度合いによっては再起のための廃業なども視野に入れた事業継続に取り組む事が必要と語りました。

細坪氏は最後に「『復旧しなければ』ではなく『形を変えてでもお客様に提供し続ける』と考える。そのためには社員と、現状認識、経営者の夢、これからどうしたいのかを語り合うことが重要。コロナ終息後も既存事業が元に戻らないのであれば、ビジネスモデルや市場から見直していくイノベーションが求められる。経営指針の足元が揺らいでいる現状でも売り上げを作るには既存事業からの脱皮、新規事業の拡大などによる事業継続力を身につけなくてはならない」と締めくくりました。

この内容を踏まえ、希望者のみで8月3日、6日、7日の全3講からなる事業継続連続講座が開催されます。ワークショップも交え、事業継続の基本から学習し、自社の経営指針(経営計画)との融合まで取り組む予定です。

今後も感染症や災害にとどまらず、様々な経営環境の変化がありえます。自社の経営指針に事業継続計画を融合し、どんな環境変化においても生き抜く企業づくりに取り組みましょう。

# 8月例会のご案内

## 山形支部

**業績を改善させるたった1つの方法  
～社長の会社のスタッフさん、  
本音で喋ってますか？～**

**日時：2020.8.7(金) 18:30～21:00**

**場所：「やまぎん県民ホール」2階 スタジオ1**

内容：関西フィルハーモニー管弦楽団で経営改善を成し遂げた経験を評価され 2015 年山形にやってきた西濱専務理事。当時の山形交響楽団は赤字経営が続き、経営課題が山積するも状況改善に効果が振るわず。そこで西濱専務が 1 番最初にしたことは経営・財務・そして人についての「改革」。徹底的な現場主義から、スタッフや楽団員をはじめ多方面でのヒアリングと個人面談を実施。そこから経営課題を見つけ出し思い切った改善を行い、組織自体の意識改革を断行して目を見張る回復を見せる。ではなぜ山形交響楽団は、経営を V 字回復できたのか！？その秘訣をお聞きます。

※e.doyuからのお申込みは終了いたしました。

## 寒河江支部

毎年恒例のビアパーティーは、大変申し訳ございませんが情勢を鑑みて中止とさせていただきます。

9月例会を鋭意企画中です。よろしくお願ひ申し上げます。

## 置賜支部

**コロナショックで確信した組織のあり方  
競争心から向上心(自分力)へ**

**日時：2020.8.28(金) 18:30～21:00**

**場所：伝国の杜**

**報告者：(株)ライフ総合研究所**

**専務取締役 林一清氏**

内容：茨城県水戸市に本社があり、群馬、福島いわき、米沢、ハワイに営業拠点がある(株)ライフ総合研究所は設立当初から顧客基準の理念経営を掲げ、営業はせず紹介のみのスタイルで活動し、お客様の視点に立った観察、行動を大切にしている組織づくりに挑戦し続けてきました。製造業、流通業、金融業を経験してきた林氏は、様々なお客様との出会いから沢山の学びを活かし、経営に生かせる保険設計と経営者のカウンセリングを行っています。例会では、よりお客様のニーズに応えるため、今年3月に新会社を設立した林氏より今まで経験した業界の裏側や多くの顧問先から学んでこられたこと、これからの組織づくりについてお話しいただきます。

## さくらんぼ支部

**日時：2020.8.25(火) 18:30～21:00**

**場所：東根市「まなびあテラス」講座室AB**

**講演：「大石田地域おこし協力隊」  
大野達也氏(元お笑い芸人)**

内容：現在、大石田町の地域おこし協力隊として活躍している大野氏より、地域の活性化と大石田人口増加に向けて取り組んでいる中で、現状と課題、今後の取り組みについて講演をいただきます。

大野氏は元お笑い芸人として活躍された後、山形県の大石田町で地域のため、町や町民と一体となって取り組んでおられます。その地域の発展に向けた活動と、自社の地域の中での存在意義、在り方を学んでみましょう！

## 新庄最上支部

**日時：2020.8.4(火) 18:30～21:00**

**場所：新庄市「厨ダイニング」**

内容：毎年恒例のビアパーティーと情報交換で会員相互の親睦を深めましょう！

今後のコロナ対策、社員の雇用や教育、業界のこと、現在抱えている課題や不安など日頃考えていることを語り合しましょう！

## 庄内支部

詳細は追ってご連絡申し上げます。

**■開会挨拶**

川合代表理事がAfterコロナに向けた「3つの視点」として、「一つはマーケティング、非対面販売を打ち出していくこと。Web広告はyahooとgoogleが大きなシェアを占めているが、注視すべきはそれらのうち新規獲得率が99%を占めているということ。また会議もwebへと移行していく。もう一つは商品やサービス。物販であっても通信販売へのシフトが強まっており、サービス業においてもデジタルシフトが重要となっていく。最後にチームや組織。移動時間の短縮など、無駄を省いて場所にとらわれずそれぞれのチームが仕事できる必要がある。全ての業界が変革しなければ生き残れない」と提起し、挨拶としました。

**■報告事項**

1)臨時中同協経営労働委員会(6/11 zoomにて開催)

小川理事から「加藤中同協副会長からの問題提起があり、現状において人を生かす経営の実践を今一度再考し、コロナ禍で実践しているかどうかという内容で、社員と危機感を共有し、全社一丸で乗り切る体制を作らなければいけないという話だった。人間性、社会性、科学性の観点から自社を見つめ直すこと、経営者の覚悟は雇用を守ることに、責任は会社をつぶさないこと、と提起があった」と報告がありました。

2)6月度月次報告

矢作事務局長から6月の月次報告がありました。

3)2020年度6月月次決算報告

矢作事務局長から6月の月次決算報告がありました。

**■承認事項(入・退会承認)** 3名入会 420名

**■討議事項**

**議題1:要望・提言活動について**

川合代表理事が6月17日に山形県知事、小松県議会議長、小松県議会議長を訪問し、要望・提言を行ったと報告した後で、今後の対応と取り組みについて下記の内容を提案し、承認されました。

- ・県選出国會議員・県議会議長・県議会議長・県議会議長の方との意見交換会開催
- ・商工団体及び関係機関との連携による統一した運動展開等の実施
- ・マスメディアを活用した県民理解促進運動の展開
- ・ホームページ等を活用した対外広報の展開
- ・同友会会員相互による制度概要及び必要性などの共有
- ・スモールサンの実施する永久劣後ローンの署名運動への協力

また、中同協が実施する「第3回コロナウイルス感染症緊急アンケート」に山形同友会として取り組み、本県の集計結果を総括し、今後の対応策に反映することが決まりました。

**議題2:組織強化について**

菅原代表理事が組織委員会の報告として、「e.doyu」の利用率、会員増強の進みが遅いこと、例会に参加しない会員に対してどう有益な情報を届けていくかといった問題が挙げられ、「e.doyu」や現状のツールへの理解を深めるための取り組みと、After、Withコロナに向けて様々な示唆、情報を提供していく必要性があり、組織委員会として「e.doyu」だけにとられない情報発信を検討していくことを確認したこと、4委員会合同例会は委員長会議でテーマを検討し、10月に開催する予定であると報告しました。

佐藤(栄)理事からは、9月29日に酒田リッチガーデンにて酒田地区会設立祝賀会を開催する旨の提案があり、承認されました。

**議題3:第17回経営研究会開催について**

川合代表理事から経営研究会開催に向けての提案があり、実行委員長の高橋理事から、状況を踏まえた形式での開催を検討したいと意見があり、開催することが承認されました。

**議題4:BC講座について**

菅原代表理事から7月15日の講演、8月3日、6日、7日の連続講座の説明と参加呼びかけがありました。

**議題5:他団体よりの依頼**

川合代表理事の提案で岡田知弘氏講演会実行委員会よりの協賛依頼が承認されました。

**議題6:事務局賞与の件**

事務局2名分の賞与支給が承認されました。

**■その他**

1)共同求人委員会より

- ・今年度の山形大学インターンシップは経営者の講義と事前訪問をモデルケースとしてWeb開催
- ・東北文教大学より学内企業説明会へ参加依頼があり4社参加予定
- ・山本学園・山形Vカレッジより「ワーキングアドベンチャー〜企業人との座談会〜」へ参加協力依頼

2)地域活性委員会より

- ・今年度の山形大学連携授業は後期開催予定。現状は通常講義を予定しているがコロナ禍の状況によってはリモート形式もありうる。会員企業の方々3名ほどに講師をお願いする予定。

3)今後の予定について

- 7月10日(金)北海道・東北ブロック代表者会議(Zoom)13:00~15:00
- 7月14日(火)第52回中同協定時総会(Zoom)13:00~14:25
- 7月14日(火)中同協2020年度第1回幹事会(Zoom)14:30~16:00
- 7月15日(水)BC講座 講演(Zoom)14:00~16:00
- 7月16日(木)第25期経営指針をつくる会「財務プレセミナー」13:00~
- 7月21日(火)中同協臨時共同求人委員会(Zoom)
- 8月1日(土)~2日(日)第25期経営指針をつくる会第1講
- 8月3日(月)BC講座 ワーク第1講(Zoom)13:30~16:30
- 8月6日(木)BC講座 ワーク第1講(Zoom)13:30~16:30
- 8月7日(金)BC講座 ワーク第1講(Zoom)13:30~16:30

4)次回理事会の予定

- 日時:8月11日(火)15:00~17:00
- 会場:TISカンファレンスセンター

5)令和2年7月豪雨への対応について

被害状況を調査している段階であることもあり、支援要請については常任理事に対応を一任することを確認しました。

**■閉会挨拶**

阿部副代表理事から「コロナ禍の中、リモートでの参加も当たり前になり、地域内での取引が中心の自社ではzoom等を使う機会は同友会以外ではなかったが、今後は当たり前になっていくのだからと感じている。経営研究会、酒田地区設立祝賀会など今後の行事予定も決定し、開催形式の検討は必要だが、同友会は歩みを止めず会員に寄り添う団体だと改めて認識。これからも皆様と一緒に同友会活動に取り組み続けたい。」と挨拶がありました。



**新会員  
紹介**

**会員変更**

◇ <sup>しょうじ</sup> <sup>しょうこ</sup> **庄司 章子氏**

なでしこプランニング株式会社  
代表取締役  
金融に関するコンサルタント業  
庄内支部

◇ <sup>かねこ</sup> <sup>のぶゆき</sup> **金子 信之氏**

株式会社ピージーエス  
代表取締役  
自動車クリーニング  
山形支部

◇ <sup>かわはら</sup> <sup>めぐみ</sup> **河原 恵氏**

Various fashion  
代表  
ファッションスタイルカウンセラー  
山形支部

- (株)SRホーム 代表取締役 川越 功氏⇒ (株)デワホーム 専務取締役 富樫亜由美氏 (山形支部)
- (有)オーリーガラス 代表取締役 折原雄一氏⇒ 店長 高橋秀和氏 (山形支部)
- (株)サンペンディング東北酒田営業所 所長 佐藤明良氏⇒ 中條正樹氏 (庄内支部)



山形県中小企業家同友会

# 委員会だより

2020年度第1号 2020.8.1発行  
山形県中小企業家同友会  
山形市漆山大段 1865-5 TIS BLDG.201  
TEL : 023-615-8302  
HP : <http://yamagata.doyu.jp/>

## 【社員共育委員会】 -学習会より-

社員共育委員会では毎回学習会を開催しております。

前回の学習会で中堅社員の育成についての問題提起があり、今回は力量表をどのように活用して社員教育を進めているかの学習会となりました。

数年前から委員会では組織図、職責表、力量表を活用した取り組みを行っております。様々な取り組みが話し合われましたのでその内容を報告いたします。

A社では「給与の不満以上にキャリアパスが見えにくいのが社員の退職につながったのではないか」との意見を受け、キャリアパスが見える会社づくりに取り組んだ。

給与テーブルと職務分掌表を連動させ、「社内大学」と称し社内学習を実施。自己評価と上長評価を併用しているが、間接部門の評価制度の整理や、評価する上長の認識力向上が今後の課題。

B社では「理想の社員」を明文化し、人事考課で技術力と人間性の両面を勘案している。自己評価はうまくいかないことが多く、上長の評価としている。

C社長からは、人が評価をすることへの心理的抵抗があるが、新卒3年目の社員や入社希望者がおり、評価の仕組みについて考える時が来たと感じているという意見が出ました。

D社では目標への到達具合による絶対評価を運用しているが、中途採用の社員は相対評価になじんでおり抵抗があるようだ。会社は何を評価するのか会社側からの明言は必須と感じている。

E社では組織図と職務分掌表を作り、各段階で求められる目安を明らかにしている。また力量表を作成し個人面談を基に評価を行い、結果社員のスキルが目に見えて向上した。

など、力量表の活用から評価制度まで各社の情報交換が行われました。

なぜこのような仕組みやツールを活用しているのか、経営理念や方針に紐づけて社員にしっかり説明することが必要と感じました。

社長が評価するためのツールではなく、この仕組みでどうなりたいのか、どんな会社をめざすのか明確にし、丁寧で細やかな社員とかわりあうことの大切さを学びました。

こんな学習会をしています。

第3水曜日に社員共育委員会を開催していますので、会員の皆さんお待ちしております。

参加希望の方は事務局へ電話一本！

次回委員会 日時：8月19日（水）17:30～

（現在、基本的に第三水曜日に開催しています）

場所：山形同友会事務局

（山形市漆山大段 1865-5 TIS ビルディング 201）  
Zoomでのリモート参加も可能です！

